

# 姫路市立安富北小学校 ユネスコスクールを目指して ESD教育に取り組む

ホタル採取～飼育



ESD視点－環境

異文化交流



ESD視点－国際理解

校長 谷口 晴久  
 連合自治会長 古井重次郎

## 1 児童数及び学級数

平成30年5月1日現在

学年	1	2	3	4	5	6	合計
児童数	5	2	7	4	3	7	28
学級数	1		1		1		3

H31年度は完全複式を解消

学年	1	2	3	4	5	6	合計
児童数	7	5	2	7	4	3	28
学級数	1	1	1		1		4

## 2-1 学校規模が小さいことによるメリット及び課題

### 【メリット】

児童

- ・きめ細やかな指導 反復学習
- ・目が行き届く生活指導
- ・一人ひとりが主役 活躍場面が多い

教師

- ・多様な学習形態 複式学級 ESD教育
- ・教師のスキルアップ

地域

- ・学校が地域の核 地域活性化プラン
- ・市、大学、新聞社等の支援
- ・ASPnetで学校間交流

## 2-2 学校規模が小さいことによるメリット及び課題

### 【課題】

児童

- ・多様な学習集団を編成しにくい
- ・競争心が育ちにくい
- ・複式の編成が人数により変わる

教師

- ・一人あたりの校務分掌が多い
- ・出張にあまり行けない
- ・教材研究・準備を2学年分

地域

- ・PTA活動の負担
- ・地域の高齢化(人材確保)

### 3 地域からの支援・地域との関連

- ・姫路市がんばる地域応援事業  
とみす活性化計画(神戸新聞社・甲南大学)
- ・5年先、10年先を見据えたビジョン  
北小は計画の核  
運動会、学習発表会←地域の楽しみ
- ・親から子、子から孫に続く伝統
- ・和太鼓→森林体験フェア、関火祭り
- ・鼓笛隊、ホタル飼育
- ・多様な人材(ふるさと先生)

### 4 おわりにー1

#### 不登校児童・生徒の現状

- ①自宅引きこもり
- ②適応指導教室  
(総合教育センター・やまびこの郷)
- ③フリースクール



別の公立学校で再チャレンジの機会を  
義務教育の保証 → 特認校制度

#### 4 おわりにー2

子どもの状態や保護者の願い

- ・健康状態(アトピー・喘息etc)



自然の中で学ばせたい

- ・少人数で目配りができる学校で学ばせたい
- 自由でのびのびと学ばせたい
- 活躍できる場面が多いetc



学校選択の機会の拡充 ➡ 特認校

姫路市人口統計5歳年齢区分 -81

校区名		0~4歳	5~9	10~14	15~19
安富南	計	133	160	214	240
	男	73	81	93	126
	女	60	79	121	114
安富北	計	21	27	34	41
	男	10	14	20	18
	女	11	13	14	23

-13



# 姫路市立苜野小学校

～学校規模が小さいことによる  
メリット及び課題など～



チョウの出前教室



国際理解教室

校長 原田裕文

連合自治会長 橋本 栄

## 1 児童数及び学級数

学年	1	2	3	4	5	6	合計
児童数	5	4	7	2	5	6	29
学級数	1	1		1		1	4

平成30年5月1日現在

## 2 学校規模が小さいことによるメリット及び課題

### 【メリット】

- ・伸び伸び育つ
- ・個別指導 基礎学力の定着
- ・一人一人 活躍の場
- ・たてわり集団 やさしい心
- ・中学でも進んでリーダー 高い学力
- ・児童の情報 共有 対応
- ・教師が子どもとじっくり向かい合う
- ・地域コミュニティが活発

## 2 学校規模が小さいことによるメリット及び課題

### 【課題】

- クラスの中だけでは、いろいろな考えに触れることが少ない
- ・5. 6年で いっしょに授業
- ・他の学校との交流 パソコンでの交流
- 多くの人に一度に接することが少ない
- ・小学生陸上大会出場
- ・ジャコウアゲハサミット(県立大学)

### 3 地域からの支援・地域との関連

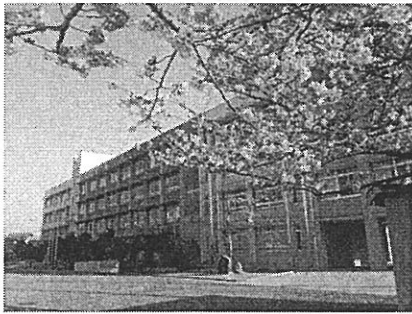
- ・地域の方 学校行事に進んで参加
- ・三世代交流 地域コミュニケーション
- ・地域活性化 アザミ アゲハ
- ・「子どもは筋野の宝」 見守り
- ・地域の願い ふるさとを愛する子ども

### 4 おわりに

- ・小学校が地域の心のより所
- ・小規模校だからこそできる教育
- ・小規模特認校制度 課題の緩和
- ・姫路市北部農山村地域活性化構想

# 姫路市立高浜小学校

～学校規模が大きいことによる  
メリット及び課題など～



校長 井上 英樹

## 1 児童数及び学級数

学年	1	2	3	4	5	6	合計
児童数	157	166	165	187	162	200	1037
学級数	5	5	5	6	5	5	32

平成30年5月1日現在



## 2 学校規模が大きいことによるメリット及び課題

### 【メリット】

- ・集団の中で、多様な考え方に触れ、対話的な学びの展開が図りやすい。
- ・学校行事等の集団教育活動に活気がみられる。
- ・多様な集団形成や豊かな人間関係づくりが行いやすい。
- ・集団生活を通して、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。



## 2 学校規模が大きいことによるメリット及び課題

### 【メリット】

- ・バランスのとれた教職員の配置が行いやすい。
- ・校務分掌も組織的に機能しやすい。
- ・出張・研修等へも参加しやすい。
- ・学校全体で組織的な指導体制が組みやすい。
- ・教職員同士の相談・研究・協力が行いやすい。
- ・PTA活動等において、保護者の負担が分散しやすい。



## 2 学校規模が大きいことによるメリット及び課題

### 【課題】

- ・学習面、生活面において、全職員による児童一人一人の把握が難しい。
- ・学校行事において、個別の活動機会を設定しにくい。
- ・教職員相互の連絡調整が図りづらい。
- ・特別教室や体育館、運動場の施設や設備の利用に制約が生じる。

## 2 学校規模が大きいことによるメリット及び課題

### 【課題】

- ・児童数に対して、各階にあるトイレ・手洗い場の数が少なく、休み時間内での利用が難しい。
- ・地域教材の学習として、地域の施設訪問を実施する場合、人数が多いため実施内容が制限される場合がある。
- ・災害時等の緊急避難や引き渡し時に、混乱が生じ、周辺道路の混雑等、地域住民の生活に支障をきたすおそれがある。

### 3 地域からの支援・地域との関連

- ・自治会や老人会等、地域の各種団体は、学校に対して大変協力的で、色々な面でご理解とご支援をいただいている。
- ・子ども見守り隊(160名)、スクールヘルパー(80名)を中心に、地域ぐるみで子どもたちの安全を見守っていただいている。



### 4 おわりに

- ・保護者や地域住民の中には、姫路市で一番児童数の多い学校ということに誇りを持っている方も多く、学校に対し協力的である。今後も、学校・家庭・地域の連携を大切に学校運営を進めていきたい。
- ・職員数が多いというメリットを生かすために、組織としての教職員の連携がより効果的に機能するよう組織力向上に努めていきたい。
- ・施設・設備等の教育環境の改善・充実を進めていきたい。